

コロナ禍によって、祈祷会を休止しています。再開できるまで、ショートメッセージをホームページに掲載しますので、それぞれの家庭で、このみ言葉を黙想し、心を合わせて祈りましょう。主が教えてくださった「主の祈り」について学びたいと思います。

主よ、私たちにも祈りを教えてください

イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と言った。

(ルカによる福音書 11 章 1 節)

弟子たちは主イエスに「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください」と言いました。この文から見ると、洗礼者ヨハネも弟子たちにどのように祈ればよいかを教えたようです。それがどのようなものであったかは分かりませんが、それぞれの宗教集団において固有な祈りが存在していたようです。

当時のユダヤ人たちも一生懸命に祈っていました。使徒言行録 3 章 1 節を見ると、ペテロとヨハネが、午後 3 時の祈りの時に神殿に上っていくのが分かります。ユダヤ人たちは毎日 3 度決まった時間に祈る習慣がありました。ペテロとヨハネもユダヤ人として、一生懸命に祈っていたのに、今イエス様に祈りを教えてくださいと言っているのです。

主の祈りについては、マタイによる福音書 6 章にも記されていますが、主の祈りを教える前に、主イエスは、祈るときに偽善者であってはならないと警告しておられます。当時の信心深いと自負していたファリサイ派やサドカイ派の人たちが人に見てもらおうとした祈りの姿勢や言葉数が多い、つまり口では言うが行動が伴わない、当時の人々の自己中心的な祈りについて主イエスは指摘しています。

たぶん、イエス様の弟子は、いつも祈っておられた主イエスを見ながら、他の人々の祈りとは違う何かを感じていたのかもしれない。

そのとおりに、主イエスが教えてくださった「主の祈り」は、他の宗教や宗派では見られない、福音の真髄を示しています。また、新しい共同体であるキリスト者の群れの形成を導いてくれます。ですから、主の祈りは、教會的であり、信仰者個人が目指すべき根本的な信仰の姿勢を教えてください。

これから主の祈りについて学びながら、主の祈りに秘められた、福音の奥義と神様の恵みの豊かさを感じ取っていきたいと思います。そして、私の祈りについて、また、私の信仰のあり方について、もう一回考えてみる機会になればと思います。

*共に祈りましょう

- ・主よ、私たちにも祈りを教えてください。
- ・聖霊の御導きによる祈りができますよう、聖霊を注いでください。
- ・私たちの祈りの課題を導いてください。